

山城高校時代の追憶

山城14回 杉田 直

山城高校、懐かしい響きの言葉である。私が山城に在籍した昭和三十四年からの当時を振り返るとき、まず浮かぶのは野球への取り組みで、なかでも三年の夏に甲子園に出場出来たことが、なによりも思い出深い。

当時は、グラウンドが改修で使用出来ず、授業が終わるや、バスで嵐山に行き、そこでの練習の毎日、学校のグラウンドで練習出来たのは、確か三年のときからと記憶している。

三十五年の秋に先輩達からチームを引継ぎ、初めての秋期近畿大会では、初戦で敗退、この敗戦が悔しく、冬季練習では、経験したことのない厳しい練習の毎日、今思うと、よくやれたものだと思う。

翌年春の府大会では、準優勝を収めたが、全員がこの結果に満足出来ず、夏に向かって更なる猛練習に取り組むことになる。

夏の大会が開始されるや、我が山城野球部は、あれよあれよ

と勝ち進む中で、印象深いのは、準々決勝での対紫野高戦で、一点を先行されたが、恵みの雨でノーゲームとなり、再試合に快勝、その後は、順調に京都大会・京滋大会と勝ち進み、甲子園への出場切符を手にすることが出来た。

試合ごとに応援してくれる人数が増え、グラウンドとスタンドが一体で得た栄冠である。

甲子園での思い出は、入場行進の素晴らしさ、身の引き締まる思いを、今でも記憶している。その後、大学・社会人と野球を続け、日の丸を付け海外で「君が代」も聞いたが、甲子園の感動が最大のものであった。

九人の同級生全員が、レギュラーとして出場できた仲間が、不幸にして、太田・竹中・橋本の三君が他界し、当時のメンバーを組むことが出来なくなったが、いつの日か、別の世界で一緒に楽しい野球をしたいものです。

先に行った三人の冥福を祈りつつ山城時代の思い出を閉じる。

杉田直君は平成十八年三月二十六日に逝去されました。
ここに生前の活躍を偲ぶとともに哀悼の意を捧げます。

山城十四回卒業生一同